REPLIGEN

第3回 バイオ医薬Expo

展示内容・セミナーのご案内

バイオ医薬品製造におけるアップストリームから
ダウンストリームまでのポートフォリオを網羅。
プロセス開発から商業生産までカバーしたラインナップを紹介します。

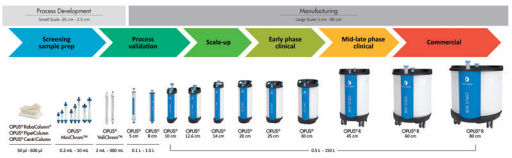
展示ブースにて、セミナーも実施しますので、
是非とも **青海展示棟A8-51** ブースまでお越しください。

LINEUP

OPUSプレパック　クロマトグラフィーカラム

デモ・実機展示あり　海外製品

ご要望に合わせ任意の樹脂をパッキングするサービスです。カラムIDとベッド高も選択でき、お客様だけのプレパックカラムをお届けします。GMP対応も可能で作業時間を大幅に低減し、人件費の削減を可能にします。



製品カテゴリー
受託サービス ＞ バイオ医薬品受託製造（CMO）、タンパク質発現・精製・生産受託
分離・精製・濃縮装置 ＞ 精製用カラム・担体

TangenX タンジェンシャルフローろ過

世界初　デモ・実機展示あり　海外製品

業界初シングルユースTFFカセットタンジェンシャルフローろ過膜。シングルユース化することで、面倒な準備や膜再生の作業を減らせ、従来のマルチユース膜比較でコストを1/5にできます。スケールアップも容易です。

製品カテゴリー
受託サービス ＞ バイオ医薬品受託製造（CMO）、タンパク質発現・精製・生産受託
分離・精製・濃縮装置 ＞ 限外ろ過・精密ろ過フィルター、膜分離システム

XCell ATF システム

世界初　デモ・実機展示あり　海外製品

連続潅流培養システムで、小スケール且つ高生産を同時に実現できます。この他、最終バッチ製造の前に高密度細胞シードを作成、バッチプロセスでの時間短縮と、最終生産量を増やすことも可能になります。

製品カテゴリー
培養機器・設備 ＞ その他、培養機器・設備、受託サービス ＞ バイオ医薬品受託製造（CMO）
分離・精製・濃縮装置 ＞ 膜分離システム

スペクトラム 中空糸ろ過システム

デモ・実機展示あり　海外製品

限外ろ過、ダイアフィルトレーション、精密ろ過、幅広いポアサイズのラインナップと、最小1mLから最大1000Lのプロセスサンプル量まで、同じ中空糸のシステムでスケーラブルに対応できます。

製品カテゴリー
受託サービス ＞ バイオ医薬品受託製造（CMO）
分離・精製・濃縮装置 ＞ 限外ろ過・精密ろ過フィルター、膜分離システム

アニマルフリー細胞培養サプリメント

海外製品

LONGR3、LONG EGF細胞培養サプリメントはIGFR、EGFRのリガンドのアナログで、MAPKシグナルの活性化とアポトーシス回避により、少量且つアニマルフリーにて、血清添加時と同等の細胞増殖を可能にします。

製品カテゴリー
研究機器・試薬 ＞ 培地・試薬類
受託サービス ＞ バイオ医薬品受託製造（CMO）、タンパク質発現・精製・生産受託

セミナースケジュールは裏面をご確認ください

REPLIGEN セミナースケジュール

日　付	時　間	タイトル	演　者
7/3（水）	14:00 ▼ 14:20	バイオ医薬品製造における超高密度細胞培養アプリケーション	Aidan Audouy
	17:00 ▼ 17:20	バイオ医薬品製造における超高密度細胞培養アプリケーション	Aidan Audouy
7/4（木）	14:00 ▼ 14:20	バイオ医薬品製造における超高密度細胞培養アプリケーション	Aidan Audouy
	17:00 ▼ 17:20	バイオ医薬品製造における超高密度細胞培養アプリケーション	Aidan Audouy
7/5（金）	11:00 ▼ 11:20	“OPUS® プレパッククロマトグラフィーカラム：自動化 HTS クロマトグラフィーからシームレスにパイロットスケールまで”	Tim Schroeder
	15:00 ▼ 15:20	“OPUS® プレパッククロマトグラフィーカラム：自動化 HTS クロマトグラフィーからシームレスにパイロットスケールまで”	Tim Schroeder

バイオ医薬品製造における超高密度細胞培養アプリケーション

[要旨]

バイオ医薬品製造では、コスト低減と品質向上が絶え間なく追求されるにつれ、連続培養による製造と、プロセス密度の強化に目まぐるしく移行しています。超高密度細胞培養は、バイオ医薬品製造フローにおいて、細胞バンキング、N-1、連続灌流培養を含む複数のステップで用いられています。さらに今回我々は、フェドバッチ培養から、連続して無菌状態にて、タンパク質生産量をx2にしつつ、遠心とDepthフィルター処理が不要な画期的なアプリケーションを開発しました。

Aidan Audouy

[演者プロフィール]

Aidanは2002年にバイオプロセス民間企業でキャリアをスタートし、様々な技術を用いた業務に従事。最初は微生物高圧破砕システムに特化したConstant Systemsに入社、海外への拡張に伴い2005年に、米国支社の立ち上げに参画。2010年に、ATFシステムとして知られる商業生産レベルでの連続灌流培養技術のリーディングカンパニーである Refine Technology社に入社。2014年にProteinA リガンド, ATF システム, OPUS®, LONG-R Growth Factors, TangenX, Spectrum フィルターで知られるRepligen社に入社。現在はシンガポールを拠点に、急成長のアジア市場をサポートしています。

“OPUS®プレパッククロマトグラフィーカラム：自動化HTSクロマトグラフィーからシームレスにパイロットスケールまで”

[要旨]

プロセス開発用OPUS®プレパッククロマトグラフィーカラムは、スクリーニング、プロセスバリデーション、ウイルスクリアランス、スケールアップ、サンプル調製など、ダウンストリームのあらゆる場面で用いられています。今回のセミナーでは、正確なスケールダウンモデルとなるOPUS® ValiChrom columnsが、ウイルスクリアランス試験を例に、どのようにして、理想的なプロセスバリデーションを実行できるのか紹介します。さらに、96ウェルフォーマットのミニチュアカラムであるOPUS® RoboColumns®と、クロマトグラフィーとサンプル調製を同時に完全自動化を可能にするロボット分注器との連動アプリケーションについても紹介します。

Tim Schroeder

[演者プロフィール]

Tim Schroederはドイツ Ravensburgを拠点に、以前はAtoll社、現在Repligen社のプロセス開発用OPUSプレパッククロマトグラフィーカラム製品の責任者である、プロダクトマネジメントディレクターとして活動しています。2016年のRepligen社によるAtoll社の買収の前に、TimはAtoll社にて、MediaScoutクロマトグラフィーカラムとRoboColumnの製品開発から製造販売まで部門の責任者として従事していました。Aachen大学　応用科学を卒業。学位、バイオテクノロジー専攻。 ドイツのユリッヒにあるリサーチセンターでロボカラムの開発とシステム統合に関する卒業論文を完成させ、最終的に米国特許を取得しました。